

発生予察特殊報について
平成14年度病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します

平成14年度病害虫発生予察特殊報第2号

1. 特殊報の内容

- (1) 病害虫名：キク緑化病（仮称）
- (2) 病原菌：ファイトプラズマ（旧名：マイコプラズマ様微生物）
- (3) 作物名：キク
- (4) 初発生確認年月日：平成11年4月
- (5) 初発生確認場所：具志川市、勝連町
- (6) 分布：東南アジア、台湾など

2. 本病の発生経過

- (1) 平成11年4月、具志川市と勝連町のキク圃場に花器が緑化し、正常開花しない奇形花株が認められた。この症状は海外で発生しているファイトプラズマに起因する病害に類似していることから、感染植物を独立行政法人農業研究センターマイコプラズマ病害研究室に同定依頼したところ、本病原はファイトプラズマであり分類上は我が県で1960年代に発生が確認された、マメ類てんぐ巣病の病原と同一であることが判明した。キクでの発生は我が国で初めてである。

発生圃場において、罹病株の抜き取り防除、殺虫剤散布防除等を徹底した結果、その後の発生は認められなかった。また、同年4～5月に14市町村、149圃場、約10haを調査したが、初発生地以外での発生は認められなかった。

- (2) 平成13年4月、久米島具志川村（現久米島町）のキク圃場で同様の奇形花株が確認され同研究室に同定依頼したところ、平成11年4月に具志川市などで確認されたファイトプラズマと同一であることが判明した。

その後の調査で、ダイコン、カラシナで奇形花株が確認された（現在、検定中）。雑草での調査では、アキノノゲシ、ハルノノゲシ、オニタビラコ、ウスベニニガナ、ヒメゲンバイナズナ、オオアレチノギク、アワユキセンダングサ、ヨモギでPCR検定の結果、罹病が確認された。

平成13年4月に46ほ場、4.9haを調査した結果、18ほ場で1212本の奇形花株が確認された。その後、キクおよび雑草の罹病株の抜き取り、媒介虫防除等を実施した。平成14年3月5～7日の具志川村及び仲里村（現久米島町）のキク一斉調査では、50圃場、7.2haを調査した結果、具志川村の1圃場で22本の奇形花株が確認された。

- (3) 平成13年6月及び平成14年1月に全県一斉調査を実施した結果、久米島具志川村以外での同病の発生は確認されなかった。

3. 本病の症状と伝播方法

- (1) 病徴：典型的な症状は、花器が緑のまま開花せず（花器緑化）やがて花を突き抜けて新たな芽を生じ（突き抜け症状）葉が小型化、叢生状態となる。また、感染時期が早いと花が緑のまま肥大せず開花しない場合もある。

- (2) 伝播：本病は、ミナミマダラヨコバイにより媒介される可能性がある。

ア 平成11年12月の調査の際、圃場及びその周辺で、ヨコバイ類を採取し、独立行政法人農業環境技術研究所昆虫分類研究室に同定依頼したが、ミナミマダラヨコバイは確認されなかった。

イ 平成13年5月、具志川村でヨコバイ類を採集し、埼玉大学教育学部生物学研究室 林 正美教授に同定依頼したところ、ミナミマダラヨコバイが確認された。

4. 防除対策

- (1) 罹病株は、伝染源となるので、早期に抜き取り処分する。
- (2) ヨコバイ類の防除を行う。
- (3) アキノノゲシ等多くの雑草でも感染が確認されており、それらは伝染源となるので除去する。
- (4) 苗の移入には注意を払う。